

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第6回 相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話042-769-8203(直通)				
開催日時		平成30年10月26日(金) 18時00分~20時00分				
開催場所		相模原市役所第2別館3階第3委員会室				
出席者	委員	21人(別紙のとおり)				
	その他	1人				
	事務局	13人 (企画部長、企画政策課長 他11人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	4名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 基本構想について (2) 将来像について (3) 実現に向けた基本姿勢について (4) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 椎橋企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 基本構想について

この将来像は市長の意向を踏まえたものか。

事務局案は、局長以下の検討体制で審議をしてきたものであり、市長がこれについて了承しているものではない。

事務局案では都市像を将来像としているが、将来の都市の在り方に焦点を合わせて具体的なイメージを持たせていこうと思うと都市像の方が相応しいと考える。また、今回の計画ではまちの姿とあるが、まちとは、市街地エリアを指し、まちの集合体が都市であると考え。

将来像は都市像とした方が良い。加えて理念を統合したのが本当にこれで良いのかと疑問である。

統合した理由は、これまでの検討の中で、分かりやすい計画にして行こうとしたときに、現総合計画で、基本理念の中に都市像が一部含まれているため、分かりやすくするという趣旨で将来像としてまとめたところ。

相模原市では、これまで「安全に安心して自転車を利用しようよ条例」を制定したこともある。表現として、行政の文章らしくはないが、市民に分かっていただくという意味でこのような言葉にした例もあることから、「将来像・まち」という言葉は賛成である。

分かりやすいとは、言葉の問題だけでなく、論理的手順についても検討すべきではないか。

「都市」から「まちの姿」へ表現を改めた理由はなにか。

庁内の議論の中で、「都市」は一般的に都市部を連想させるのではないかということから、中山間地域も含めた市全体を表す文言として「まち」に改めた。

事務局案のとおり、まちの姿ということで進めていく。

次期総合計画策定方針の策定に当たっての基本姿勢をこのように定めた理由は何か。

現総合計画は、市民の目に触れることが少ない存在になっていると感じており、市民が身近に感じられる分かりやすい計画にしたいという考えから、1点目を掲げた。

次に、策定に当たっては、できる限り多くの市民の意見を伺うことが重要と考えたことから、2点目を掲げた。

また、合併により多様な地域資源を持つこととなったほか、本市をとりまく環境が変化したことを受けて、強みを生かして計画を作るべきという考えから3点目を掲げている。

最後に、社会的動向として人口減少、また、世界でも類を見ないスピードで高齢化が進行し、これから想像をしがたい社会になっていく中であっても、安全・安心で、将来にわたり明るい希望を持ち、本市で過ごすことができるよう、持続可能な都市経営をこれまで以上に進めていく必要があると考え、4点目を掲げた。

高齢化社会ということを考えていくと、急病・医療体制の確保が困難な社会になっていくものと考え。そういったことを市民に理解いただきながら、良い解決策を見つけていく、そういうニュアンスを何か盛り込めないか。

これからは後期高齢者が急激に増加してくることから、医療・介護ニーズが膨大になってくる。高齢化の問題や財政需要、人材確保などに関することを基本構想の中に盛り込んでいただきたい。

基本構想を見ると、策定方針の理念が反映されているとは言い難い。分かりやすいとは、基本はデータを分析し、その結果を踏まえて、文章についてはできるだけ分かりやすくすることが求められる。

現総合計画では、高齢者と障害者を分けているが、今回の事務局案では統合されている。統合した理由はなにか。

これからの時代においては、対象者を限定するのではなく、政策としては一緒に考えるべきという議論から統合した。

政策の体系とは、政策と施策、事務事業が目的・手段の関係で明確に整理されているものをいう。資料2の下段に政策・施策が混在した分野が羅列されているが、ここが本来の政策である。上部の基本政策は、基本目標とするのが正しいのではないか。

政策というからには、市民が一目で見て分かるよう整理いただきたい。「誰もが」とあるが、言う必要はあるのか。また、「未来を担う子どもが」とあるが、子供は未来を担うものであり不要ではないか。削除した言葉は、文章で表現すれば良い。次に、「誰もが自分らしく成長できる」とあるが、どういうことを意図しているのか。更に、「首都圏の経済を牽引する多様な産業を振興します」とあるが、「首都圏」をいう必要があるのか。最後に、「活力と魅力あふれる」というが、既に使い古されたイメージである。例えば「徒歩で暮らしを楽しめるまち」などはどうか。すべてが一言二言でコンパクトにできるのではないか。

表題の文章が全体的に長すぎる。文章を短くして、内容をもっと練るべき。同時に印象でとらえるのではなく、データ集などを読み込み、読む人がイメージを浮かべられるような内容に全体を見直していただきたい。

ストーリーがなく総花的であるため、現総合計画も全体像が頭に入ってこない。これからは、厳しい現実が待ち受けている中で、今まで通りではダメであり、優先順位をつけ、施策間の相乗効果を狙ったストーリーが必要である。

子ども・教育が若者施策につながるように位置づけていただきたい。

各政策に主語がなく、誰が行うかわからない。

図表に主語を書くか、基本構想に書くかという話であろうが、基本構想に書けば良いのではないか。

(2) 将来像について

「潤いと活力」というイメージで良いのか。不安感などを持ったタイトルに

した方が良いのではないのか。

時代の潮流を踏まえたまちづくりの展望やそれに対する市の主体的政策が浮かんでこない。急激な少子高齢化に踏み込んでおり、明らかにまちづくりの考え方を転換しなければいけない時点にきているが、そのような趣旨の記載がない。市としてどう主体的に取り組んでいくのか示す必要がある。

どういう持続可能なまちを作るのか触れられていない。

SDGsは2030年末までに様々な目標を達成しなければならず、これは総合計画・部門別計画においても、その理念が反映されなければならない。この理念を次期総合計画にどう植えつけるのかは大事な視点である。SDGsの目標と市の個別の政策をどうすり合わせていくかは盛り込むべき。

SDGsについては、市民が議論したものではなく、理念を政策に被せる発想は必要ない。相模原のこれまでの10年20年の積み重ねからテーマを出すべき。

将来像は、基本理念と都市像を統合したものとの説明であるが、どこが都市像でどこが基本理念であるかはっきり分らない。

将来像には相模原らしさを表していただきたい。また、人口減少・少子高齢化といったフレーズは20年前から使われ続けている言葉である。今後ITやAIなどを踏まえた社会となることを表していただきたい。

将来像に「一言でいえばこれが相模原の魅力」ということを盛り込んでいただきたい。

(3) 実現に向けた基本姿勢について

「次代につなぐまちづくり」は、分析を踏まえた文章になっていないという印象がある。「あらゆる分野にわたって持続可能なまちづくりを進めます」とあるが、何を持続可能とするのか書き込んでいただきたい。

何点か、検討いただきたい。(1)に「協力して市民に参画できるよう」とあるが、「パートナーシップでまちづくりを進める」など盛り込んでいただきたい。また、「様々な主体」とあるが、「様々なまちの担い手」や「多様な市民」

と言い換えた方が分かりやすいのではないか。

次に、(2) 満足度を高めるまちづくりが財政基盤の強化から始まるが、財政規律の確保も盛り込んでいただきたい。また、成果重視の行政の推進という言葉があって良いはずであるが見られない。さらに、「都市内分権の推進」とあるが、市民には分からない。「地域社会への分権の推進」であれば、ある程度理解されるのではないか。最後に、「地方分権改革に的確に対応する」とあるが、政令指定都市であれば、分権改革をリーダーとして進めるといふ、決意が必要である。

自治体間の連携を盛り込んだ経緯は何か。指定都市であれば、これを書くことにより負担が増えるようなことになるのではないか。

公共施設について、近隣自治体と共同して利用するなど効果的な運用をしていくべきとの考えを示したもの。

(4) その他

事務局より本日の議事(2)「その他」として、「世帯あたり人数の推移」及び「後期高齢者人口推移」の資料を配布した旨伝えた。

本日の議事は終了とする。

閉会

椎橋企画政策課長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉田 民雄	総合政策プランナー	会長	出
2	金森 剛	相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授	副会長	出
3	松永 千賀子	相模原市議会議員		出
4	五十嵐 千代	相模原市議会議員		出
5	阿部 善博	相模原市議会議員		出
6	須田 毅	相模原市議会議員		出
7	岸浪 孝志	相模原市議会議員		出
8	加藤 明德	相模原市議会議員		出
9	永井 博	相模原市教育委員会教育長職務代理者		出
10	高橋 三行	相模原市市農業委員会会長		出
11	小泉 幸隆	相模原市農業協同組合代表理事組合長		出
12	杉岡 芳樹	相模原商工会議所会頭		欠
13	水谷 好男	相模原市立小中学校PTA連絡協議会副会長		欠
14	坂本 堯則	相模原市自治会連合会会長		欠
15	小山 龍次	公益社団法人相模原青年会議所理事長		欠
16	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会会長		欠
17	石井 トシ子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら代表		欠
18	幸山 隆	相模原地域連合事務局長		出
19	竹村 克二	一般社団法人相模原市医師会会長		出
20	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科教授		出
21	中田 恭子	青山学院大学理工学部化学・生命科学科准教授		欠
22	長野 基	首都大学東京都市環境学部都市政策科学科准教授		出

23	西田 恵一郎	和泉短期大学児童福祉学科准教授		出
24	大谷 聡穂	公募委員		出
25	栗田 愛子	公募委員		出
26	高田 泉	公募委員		出
27	林 佳美	公募委員		出
28	牧瀬 稔	相模原市緑区区民会議会長		欠
29	飯島 泰裕	相模原市中央区区民会議会長		出
30	松下 啓一	相模原市南区区民会議会長		欠